

## 第 42 年度（2026 年度）ソフトウェア品質管理研究会 分科会紹介

「セーフティ&セキュリティ～活動実績 10 周年!

安心安全やレジリエンスエンジニアリングまで、違いがわかる人材へ～」

本分科会は「レガシーな安心安全の世界から最先端のレジリエンスエンジニアリングの世界までの安全を紐解く」との目標のもと活動をしています。

安心と安全の違いから始まり、セーフティ、セキュリティとは何かを演習を通して学んでいきます。例えば、演習の中では、トップダウンとボトムアップそれぞれの考え方に基づくロジックツリーをつくったり、レジリエンスエンジニアリングの手法である FRAM によるモデリングを行ったりとレガシーな手法から最先端の手法を体験することができます。他にもシステム理論に基づく分析手法である STAMP を用いた演習も行います。これらを現場で実践できる力が身につきます。

共に日本語では、安全と訳されるセーフティとセキュリティですが、大事なのは、いかにミッションクリティカルな業務を妨げる問題を回避するかです。また、セーフティやセキュリティの従来の考え方から一歩進めたのがレジリエンスエンジニアリングです。これら大きな違いは、失敗に学ぶのか成功に学ぶのかにあります。

活動 10 年目を迎える本分科会は、これまでも実際の事故事例や、近い将来起こりえる問題（自動車の自動運転に関する問題）、参加者の持ち込みの問題について積極的に挑戦し、成果をあげてきています。

近年では、難しいとささやかれている安全性の分析に AI を導入するというテーマについても挑戦をしています。本分科会の立場としては、AI による支援をいかに有効活用するかという視点で AI の利活用について検討をしています。

また、ビジネスやアカデミックの最前線でセーフティやセキュリティに関わる活動をされている外部講師をお招きして講演を行うのも本分科会の特徴です。

是非、安全性に関する貴重な体験を貴方の職場にお持ち帰りください。初めてセーフティやセキュリティ、レジリエンスエンジニアリングを学ぶ方も安心してご参加いただけます。初心者から上級者まで幅広くフォローができますので、積極的なご参加をお待ちしております。